

三菱UFJ 純金ファンド

愛称：ファインゴールド

追加型投信／国内／その他資産（商品）

作成対象期間：2021年1月21日～2022年1月20日

第 11 期 決算日：2022年1月20日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、純金上場信託（現物国内保管型）受益証券への投資を通じて、わが国の取引所における金価格の値動きをとらえることをめざして運用を行ってまいります。ここに運用状況をご報告申し上げます。
当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第11期末（2022年1月20日）

基準価額	16,869円
純資産総額	66,063百万円
騰落率	+ 6.9%
分配金合計 ^(*)	0円

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。


閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufg.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

 **MUFG** 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120-151034**

（受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

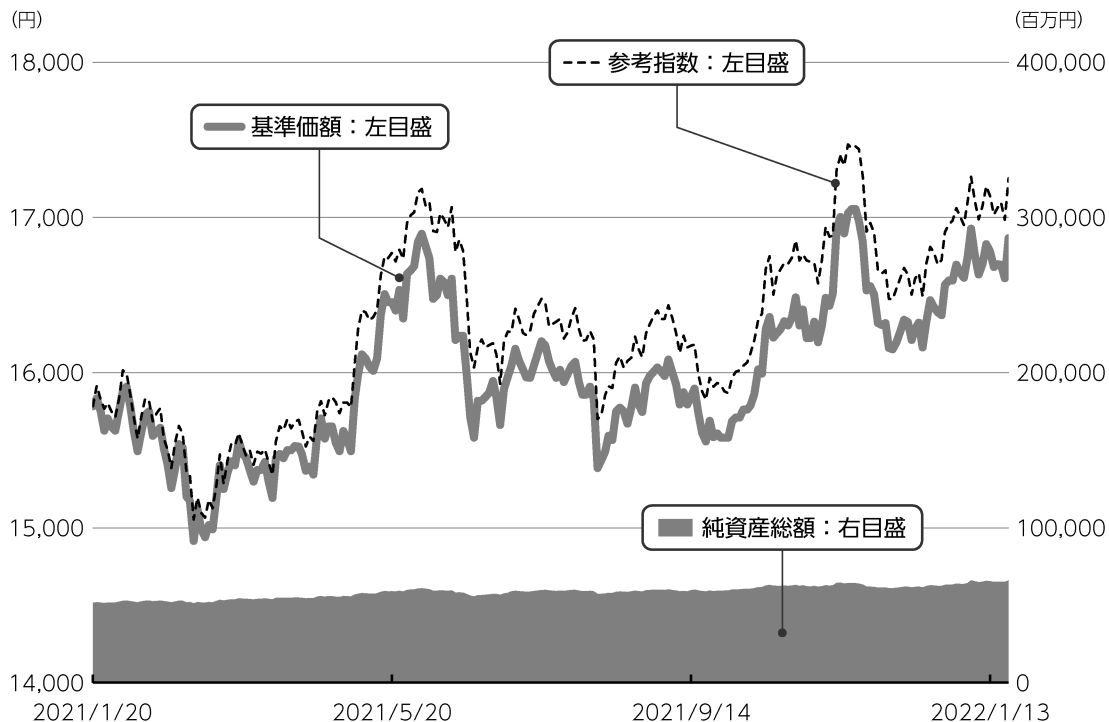
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

第11期：2021年1月21日～2022年1月20日

▶ 当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第11期首	15,782円
第11期末	16,869円
既払分配金	0円
騰落率	6.9%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ6.9%の上昇となりました。

基準価額の主な変動要因**上昇要因**

円安・米ドル高となったことが基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

金価格の下落が基準価額の一時的な下落要因となりました。

※参考指数は、指標価格です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

※参考指数は、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

2021年1月21日～2022年1月20日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	88	0.550	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(40)	(0.247)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(40)	(0.247)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(9)	(0.055)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	2	0.013	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(投 資 信 託 証 券)	(2)	(0.013)	
(c) その他費用	0	0.003	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	90	0.566	

期中の平均基準価額は、15,988円です。

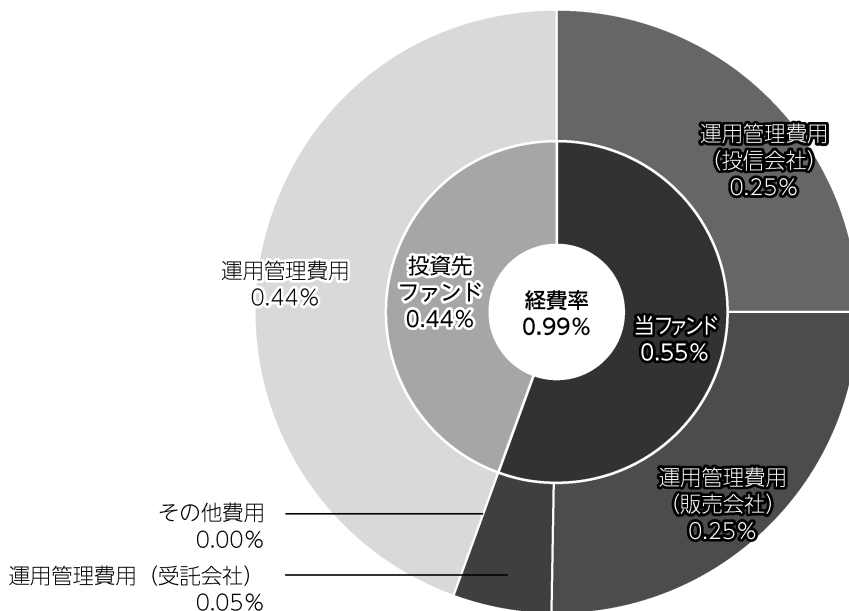
- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**経費率（年率）は0.99%**です。



経費率 (①+②)	(%)	0.99
①当ファンドの費用の比率	(%)	0.55
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	(%)	0.44

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、前記には含まれておりません。

2017年1月20日～2022年1月20日

最近5年間の基準価額等の推移について



※参考指数は、2017年1月20日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

		2017/1/20 期初	2018/1/22 決算日	2019/1/21 決算日	2020/1/20 決算日	2021/1/20 決算日	2022/1/20 決算日
基準価額	(円)	11,665	12,298	11,620	14,062	15,782	16,869
期間分配金合計 (税込み)	(円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率	(%)	—	5.4	-5.5	21.0	12.2	6.9
参考指数騰落率	(%)	—	6.3	-4.8	22.5	11.9	9.3
純資産総額	(百万円)	7,929	13,044	17,069	24,353	51,630	66,063

参考指数は、指標価格です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

第11期：2021年1月21日～2022年1月20日

投資環境について

▶ 金市況

金価格は下落しました。

期首から2021年3月までは米国長期金利の上昇を受け、金利の付かない金売る動きが強まり、金価格は下落しました。

4月以降5月頃にかけては、米国長期金利上昇がピークアウトしたとの見方が広がり、金を買戻す動きが強まりました。その後、9月頃にかけては、米国長期金利は引き続き低下傾向が続きましたが、新型コロナウイルスワクチン接種が進み世界景気の正常化を見据えたりスクオンの展開となり、安全資産と見なされる金の価格は下落傾向となりました。

9月以降、期末にかけては、米国長期金利が再び上昇基調へと転じ、為替も米ドルが買われる展開となりました。金利上昇・米ドル高はいずれも金の売り材料と見なされることが多いのですが、逆に金

価格は反転上昇傾向となりました。実物資産の金への投資をインフレヘッジ手段と捉えたり、オミクロン株による新型コロナウイルス感染症の急拡大、ロシアがウクライナ国境に10万人規模の兵力を集結させ欧米とロシアの主張が平行線をたどり緊張が高まっていることなども安全資産とされる金を買う動きにつながりました。こうしたことから、今後、米国金利の上昇が見込まれる状況下にあって、金は売り一辺倒とはならず、むしろ上昇基調となりました。

期首、期末で見ると金価格は下落しました。

▶ 為替市況

期首から期末まで大きな流れとしては、日米金利差拡大を背景に円安・米ドル高が進みました。

▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

純金上場信託（現物国内保管型）を主要投資対象とし、わが国の取引所における金価格の値動きをとらえることをめざして運用を行いました。

▶ 参考指数との比較

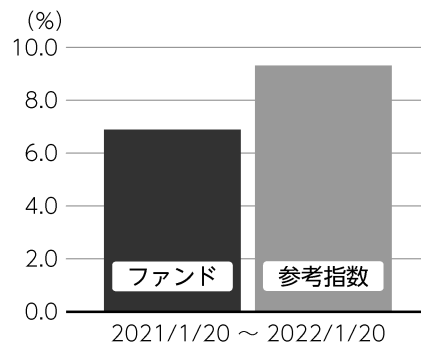
ドル建て金価格は下落しましたが、円安・米ドル高が進行し、円建て金価格は上昇しました。その結果、参考指数は期首と比べて9.3%の上昇となり、当ファンドの投資対象である純金上場信託「金の

果実」についても7.6%上昇しました。当ファンドと参考指数のカイ離のうち、△1.7%程度は参考指数と当ファンドの投資対象である純金上場信託「金の果実」の値動きが必ずしも一致しないことに起因するものです。また、△0.7%程度は当ファンドにおいて一定のキャッシュを保有していることや信託報酬、取引コスト等によるものです。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率との対比です。参考指数は指標価格です。

基準価額と参考指数の対比（騰落率）



分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第11期
	2021年1月21日～2022年1月20日
当期分配金（対基準価額比率）	-（-%）
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	6,869

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 （作成対象期間末での見解です。）

純金上場信託「金の果実」を高位に組み入れることにより、わが国の取引所における金価

格の値動きをとらえることをめざします。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

▶ その他

- ・該当事項はありません。

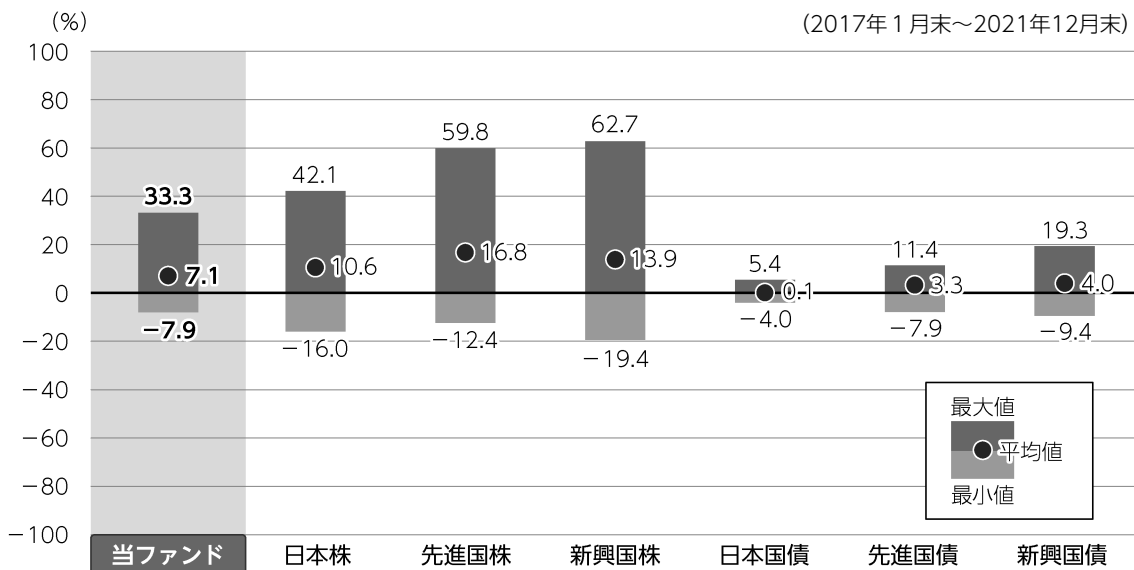
*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／その他資産（商品）
信託期間	無期限（2011年2月7日設定）
運用方針	主として純金上場信託（現物国内保管型）受益証券への投資を通じて、わが国の取引所における金価格の値動きをとらえることをめざします。純金上場信託（現物国内保管型）受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。
主要投資対象	純金上場信託（現物国内保管型）受益証券を主要投資対象とします。
運用方法	わが国の取引所における金価格の値動きをとらえることをめざします。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。（基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。）

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2017年1月から2021年12月の5年間に於ける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2022年1月20日現在

当該投資信託の組入資産の内容

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：1銘柄)

	銘柄	種類	国・地域	業種/種別	比率(%)
1	純金上場信託(現物国内保管型)	ETF	日本	-	99.1
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※比率は純資産総額に対する割合です。
 ※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

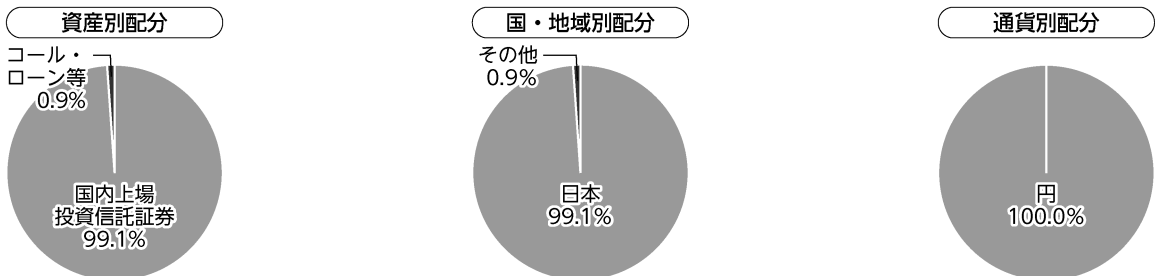
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

純資産等

項目		第11期末 2022年1月20日
純資産総額	(円)	66,063,100,859
受益権口数	(口)	39,161,839,823
1万口当たり基準価額	(円)	16,869

※当期中において追加設定元本は21,064,374,447円
 同解約元本は 14,616,686,116円です。

種別構成等



※比率は純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
 ※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先としてのファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。
 ※【国・地域別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの法人登録地、発行通貨を表示しています。

指数に関して

▶ ファンドの参考指数である『指標価格』について

当ファンドの参考指数（指標価格）は、大阪取引所（2020年7月22日までは東京商品取引所）における金1グラム当たりの先物価格をもとに現在価値として三菱UFJ信託銀行が算出した理論価格です。参考指数（指標価格）は、日本における金の店頭小売・買取価格や海外で公表される取引価格とは異なります。

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

● 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

● MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

● MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

● NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

● FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

● JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。







三菱UFJ国際投信